

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

1月・2月の活動



本年もどうぞよろしくお願いいたします

■ 熊井の森トラスト基金活動の飛躍の年に！



一緒に里山づくりを楽しむ仲間
「熊井の森こもれび倶楽部」メンバー募集中です

熊井の森づくり 説明会

1月11日(日)

時間：10:00～12:00

会場：鳩山町多世代交流センター3階 M3集会室

対象：里山づくりに関心のある方

お気軽にお問い合わせください！

プログラム

熊井の森/里山再生事業って何！

- 雑木林の手入れ ●観察会 ●休耕田でのビオトープ
- 協生農法 ●ハト麦栽培 ●写真学校 ●栗・芋味覚体験

主催 NPO法人はとやま環境フォーラム

後援 鳩山町

問合せ先 049-227-3001

kawasemi3001@gmail.com



■ 冬水田んぼビオトープづくり学習会



ビオトープ学習会

熊井の森 ビオトープ事業

100校以上の学校ビオトープづくりに関わる専門家から、
ビオトープの基本知識と技術を学びます

講師 三森典彰

株ビオトープギルド代表
東京環境工科専門学校非常勤講師

開催日 2月7日(土)

時間 午前10:00～12:00

場所 鳩山町公民館3F 第1研修室

主催/問合せ NPO法人はとやま環境フォーラム

後援 鳩山町 鳩山町教育委員会

☎049-227-3001

しなやかに
参加しましょう

「熊井の森トラスト基金」活動として取り組んでいる「自然共生さとやま保全事業」と「自然共生こもれびファーム事業」の概要、および「こもれび倶楽部」について説明し、「現代の里山」「生物多様性保全と地域の活性化との関係」などについて、皆様と本音で話し合いたいと思います。

昨年、熊井の森の石場沼下谷津でビオトープ事業を始めました。ビオトープ1号地(189㎡)は武州・入間川プロジェクト活動助成を受け、隣接する2号地(571㎡)は、埼玉県みどりの活動支援補助事業の交付を受けることが出来ました。これまでヨシや外来植物が生え繁り水面の見ていなかった2カ所を、農薬の影響を軽減し、年間を通して水が張っている「冬水田んぼ」に再生し、昆虫や水生生物の生息に適した環境を創出するのが目的です。合わせて、石場沼用水路に落下したカエルの救出のために、用水路内に40本の脱出装置を設置し、数10年以上、ヨシに覆われていた谷津田休耕田の一部をハト麦畑に再生する事業にも取り組みます。学習会はビオトープの基礎知識と技術を学べる絶好の機会です。ぜひお越しください。

12月の活動報告

■熊井の森／谷津田米を共同購入 11月24日



待望の「熊井の森／石場沼谷津田米」を購入しました。

事前予約申込者は8人いて全部で120kgほどの購入申し込みがありましたが、いただいたのは50kg（1袋5kg入り10袋）でした。

ここの農家さんの稲刈りをお手伝いしたこともあり、思いはひとしおです。玄米でいただいているので、精米する必要がありますが、玄米のまま炊いて食べても結構おいしかったです。

熊井の森のため池（石場沼）から引いた水ですから、有機物がふんだんに含まれ、生活排水の混入の心配はなく、しかも天日干しのお米です。これだけの条件の揃ったお米は、

お米がおいしいと言われる鳩山でも珍しく、「コウノトリ米」のように有名なお米に匹敵するプレミアム米の資格は十分にあるのではないのでしょうか。今秋もお米を分けていただけるのを楽しみにしています。

■トラスト1号地の下草刈り 12月7日（日）



参加者は5人。9時に現地集合で、作業内容の説明のあと作業開始です。今回は、野鳥観察舎の周りの雑木は敢えてバッサリ切り払い、見晴らしを良くしました。谷津の方から野鳥が飛んできやすくなるのではないかと。そして、観察舎の上の山の斜面もヒコバエだけでなく、枯葉を取り除き低い樹木や草も地面が出るほどに刈り取りました。そうすることで、シュンランなどの草花が芽を吹いてくるのを期待しています。

刈り取ったものをどこに置くか。話し合った結果、ひとまず、観察舎前のくぼみの所に積んでおくことに。こ



の場所は観察舎の入り口にあたり、ブランコをぶら下げる話もあったりで、使い道はいろいろありますが、それらが具体的になるまでは作業効率優先でいいのではないかという結論に至った次第です。

トラスト2号地の草刈りまでは体力が続かず断念。その脇にある町有林も草刈りをしたかったのですが、次回回しとなりました。

■ハト麦畑予定地のカヤ始末作業 12月12日



▲カヤの刈り取り作業中（カヤはまだ長いまま）



▲カヤの刈取りの後（カヤは細くなった）

11月24日にマウンテンバイク友の会の方々と一緒に、草刈りをした場所です。石場沼下の谷津にある西福寺前の休耕田（面積は約300坪）です。今後は、この場所で主にハト麦など農作物を栽培する計画です。

このあと、トラクターで土起こしをしてもらうのですが、カヤの茎が長いまま残っているとトラクターが入らないということで、3日間かけて少しずつ茎の刈り取りをして、この日がその最終日。大分短くなりましたが、まだ心配なので、12月26日には、ハンマーナイフという農機具を使って一挙に刈取り、そのあとカヤの取り除き作業をしました。いよいよ年明けにはトラクターを入れて畝づくりを始めます。

何年間も耕作放棄されてしまうと、田んぼや畑に戻すのは大変なことです。カヤが生い茂るとカヤが管になり水が抜けやすく水田には向かなくなるらしい。もっとも畑にするなら、かえて水はけがよくなるかも。ほんの1反ばかりの開墾作業ですが、開拓民の苦労を思ったり、素人ばかりの仲間内ではあれやこれやの情報交換も楽しいものです。

12月の活動報告

■辻川上流部河床の水路確保の追加工事 12月9日



鳩山町地域創生環境課から当団体に対して、「（魚等の水路確保のため）辻川の河床の岩掘を追加で施工した」との報告がありました。

過日、当団体は「辻川の河川工事が進んでいるが、辻川上流部（ちよっくま手前の新設の橋からピザ窯に向かう橋までの辻川の底面）で、水の流れが側面のジャカゴの下に吸い込まれ水流が消えているのは、魚などの生息に支障があるのではないか」との問い合わせを担当課にしてありました。

それを受けて、担当課が工事施工業者とその工事を管理するコンサルタントと協議した結果、上記の対応をしたとの報告です。当団体は了解し、「今後、役場と共に推移を見守りましょう」と回答しました。

■環境フォーラム忘年会で盛り上がる 12月21日



今年の忘年会は、11月にウッドデッキづくりに加わったばかりの方や、熊井でイノシシの罠をかけている東松山猟友会の方、野菜づくり初心者の方のほか、東京在住の学者さんや、ちよっくまの新しい指定管理会社の方などなど、23人も参加者数があり、かわせみハウスが狭く感じたほどでした。当団体の活動紹介の後、持ち寄りのプレゼントを景品にしたあみだくじで楽しんでいただきましたが、皆さんの自己紹介は興味津々で聞き入り、そこかしこで話の輪が出来て盛り上がって賑やかでした。



▲熊井の森のモミの木を飾り付けクリスマスツリーに

途中、ハトムギ粉を紹介し、粉を入れたパンケーキを焼き、食べていただき、芳ばしいと好評でした。

ウッドデッキづくり仲間を募集中です！

**熊井の森に
ウッドデッキを
つくろう**



一緒に登山づくりを楽しむ仲間
「熊井の森こもれび倶楽部」

メンバー募集中！

主催 NPO法人はとやま環境フォーラム
問合せ先 049-227-3001
kawasen3001@gmail.com

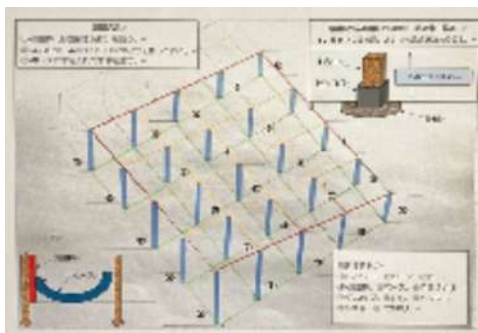
熊井の森の林の中にウッドデッキを作ろうという熱気が高まっています。若々しい目標ですね。12月14日には小雨の中にも関わらず5人も集まり2度目の測量をしました。建設にあたるのは全員素人です。中途半端な知識ですが、ああだこうだと意見を戦わせながら取り組んでいました。みんなで力を合わせて楽しく作る

ウッドデッキ。参加者を募集中です。（井田）

次回は、1月18日（日）午後1時 現地集合です。ぜひご参加ください。



▲水準測量の仕方であつた（12月14日）



ウッドデッキの面積

4.8×4.8m

ピンコロの上に土台柱を立てるのですが、地面が傾斜していて、寸法出しが難航。

ニハオ 熊井の森歳時記 ③④

難を転じて福をなす



森や林の中を散歩する際に、ときどき樹木の根元にナンテンを見かけることがあります。それはおそらく鳥さんがナンテンの種を運んでくれたおかげです。運ぶといっても、たまたま糞と一緒に落としたのです。

ナンテンは日本のどの家の庭にも植えられている顔なじみの植物です。ニュース番組で山形県や宮崎県などの生花卸売市場でナンテンやセンリョウの競りが行われる様子を見ると、「ああ、もうすぐお正月だな」という気持ちが湧いてきます。「良い家庭」「難を転じて福をなす」という縁起の良い意味から、特にお正月の時に様々な場面で重宝されています。お正月飾りや生け花などに輝く赤い実を見ると心が温まります。私のお義母さんは毎年、おせち料理に必ずナンテンの葉を入れています。そうすると、普通の煮物でも瞬時に映えるようになります。

ナンテンの姿は竹に似ているため、中国では「南天竹（ナンテンチク）」などと呼ばれています。また、竹には及びませんが、実はナンテンの成長のスピードもかなり速いです。真っすぐに空に向かって生長していく様子や寒い冬でもその凛とした様子にはいつも元気づけられます。

ということで、ナンテンにあやかって、2026年も良い一年になりますようにと、庭先のナンテンを眺めながらそっと願い事をしました。（王 菲）

森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ②②

草花の冬越し戦略にも多様性



ロゼット

冬になり寒くなると目につく草花がめっきり減ってしましますが、また春になると多くの草花が生えてきます。そんな草花たちが寒い冬を乗り越える方法には何パターンかあります。

①「種での冬越し」

これは多くの草花が取っている方法で、秋までに種を作り、親は冬には枯れてしましますが、水分が少なく乾燥や寒さに強い種という形態で春を待つスタイルで、耐久性は高いですが発芽からの成長なので競争力は低めです。

②「根っこで冬越し」

草花の中では冬になると地上の茎や葉っぱはなくなるけれども、根が地熱で温かい地下に生きて残っており、翌年もそこから芽が出るタイプがいて、2年目に種を付けて枯れる2年草や、3年目以降も生きる多年草などに分けられます。耐久、成長速度のバランスがよいです。

③「ロゼット」

冬の間だけ地面に張り付くようなぺったりとした葉（ロゼット）をつけ、強風や寒さから身を守り、春になると素早く成長することが出来ます。最速で成長する反面、耐久力は低めです。

④「冬越ししない」

①に近いのですが、寒さに強い種類や、そもそも四季や冬の概念のない外来種は効率化を求めて冬に葉を落とすいうことをせず、冬でも青々としている種もいます。耐えられなくなると枯れてしましますが、それまでに種を残しています。冬越しの多様性だけを見ても、色々な方法があり、完璧な正解なんてないんだなぁと感じます。（愛場 結偉）

活動後記 ■埼玉県ホームページで「管内NPO法人の活動紹介」と検索すると、令和7年度欄で「はとやま環境フォーラム」の訪問記が読めます。芋掘り体験イベントの様子、活動内容などが写真入りでけっこう大きく掲載。当団体主催イベントの広報に役立ちそうです。取材に来られた担当県職員の方々にお礼申し上げます。■12月14日、活動当初からお世話になっていた下熊井の西福寺住職・植木隆昌（克己）和上のお通夜に列席。住職の傍ら、鳩山町役場に勤務し、議会事務局長、総務課長などを歴任。自治功労賞受賞、熊井祭囃子保存会会長として、地域文化の継承に寄与。俳句も嗜み、代表作は「農業に 虫無事かと 子らが言う」。行年81歳。合掌。■12月17日、当団体は彩の国美緑づくり活動団体であることを証する「認定証」と、帽子、ネーム入り缶バッチが埼玉県庁から届きました。

定例観察会のご案内

開催日 : 毎月第3日曜日
集合場所 : かわせみハウス前
集合時間 : 午後1時半
(終わりは午後3時ごろ)

興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。鳩山ニュータウン内かわせみハウス前に8時半に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りも一緒できます。

はとやま環境フォーラムHP➡

